

会場名	サブリーダー	
	役職	氏名
国際会議場 1006-1007 号室	ロータリー財団委員長	宮里 唯子
	資金推進小委員会 委員長	大谷 隆英
リーダー 役職・氏名	次年度ポリオプラス小委員会 委員長	廣田 亮彦
直前ガバナー 立野 純三	次年度奨学金小委員会 委員長	岩佐 嘉昭
	次年度資金管理小委員会 委員長	嘉納 逸人
議事録作成者	担当副 SAA 太田垣 英士	

開会：(15 時 40 分)

発表者：宮里 唯子

【記録内容】 ロータリー財団 ～クラブ財団委員長の役割 (理解を深めて貰う)

1. 財団とは

1917 年国際ロータリー連合基金創設 (アーチ・クランフ RI 会長) 以降の歩みについて

*1947 年奨学金導入、1965 年多数の補助金プログラム、1978 年 3 H 補助金 (ポリオワクチン含む)

2. 財団プログラム

①ポリオ撲滅活動、②ロータリー平和センター (7 大学の奨学金提供)、③補助金 (地区補助金とグローバル補助金 →人道奉仕、奨学金、職業研修に) について

3. シェアシステム

- ・「3 年前の年次基金+恒久基金収益」の 50%が地区財団活動資金 (DDF) に、残り 50%が国際財団活動資金 (WF) にシェア
- ・ DDF の半分までを地区補助金として使用でき、残りをグローバル補助金、ポリオプラスや平和センターの支援のために使用可
- ・ WF から DDF に対して上乘せの形で還元できるシステム有り

4. 財団寄付の種類

①年次基金 (補助金の原資)、②ポリオプラス基金 (ポリオ撲滅活動)、③恒久基金 (ロータリーの未来永劫存続) ④その他

5. 財団の会計報告

- ・ 寄付の 91%を地区とクラブの奉仕活動に使用
- ・ チャリティナビゲーターによる評価は 4 つ星 (満点) …奉仕活動ウエイトの大きさを評価
- ・ 財団の会計報告書は詳細にわたり WEB サイトで公開

6. クラブ財団委員長の役割

- ・寄付集めもさることながら、財団に関する理解促進を通じて協力を得ることが重要
- ・社会奉仕委員長、国際奉仕委員長に財団補助金の有効活用を進言
- ・補助金管理についてクラブに助言、一旦補助金を取れば透明性を持って管理
- ・平和フェロー（奨学生）、グローバル奨学生に対して、優秀な学生を推薦

発表者：大谷 隆英

(16時 03分)

【記録内容】財団寄付と認証

1. ロータリー財団への寄付促進 ～目標を達成する為の要素

- ①財団活動の透明性（チャリティナビゲーターの高い評価、報告書の公開）、②寄付金使徒の自主性（プログラムが増える中でのシェアシステムの確立、プログラムの絞込み、地区財団活動資金 50%と+マッチングの合計で実質 80%は地区の手に）、③グローバル留学生（優秀な学生を送り出す）と米山奨学生（学生を海外から受け入れる）の違いを理解、④税制上の優遇措置（所得控除、税額控除）、⑤募金方法の工夫（徴収方法など）

2. 寄付の分類

- ・3つの基金…①年次基金、②ポリオプラス、③恒久基金（注；臨時基金は災害時など）
- ・寄付送金明細書（寄付者名、ID 番号、寄付金額等が寄付分類とともに明示）

3. 寄付の認証

- ①ポール・ハリス・フェロー（年次基金、ポリオプラス、承認補助金に累計 1,000 ドル以上）
- ②マルチプル・ポール・ハリス・フェロー（①の後、1,000 ドル毎に）
- ③ベネファクター（1,000 ドル達成時 1 回のみ）
- ④メジャードナー（10,000 ドル以上）、⑤アーチ・クランフ・ソサエティ（250,000 ドル以上）

*送金から約 2 週間で会員別寄付歴レポートに反映

4. ポール・ハリス・ソサエティ（PHS；1999 年創設）の紹介

- ・毎年 1,000 ドル以上の寄付意志を申し出（入会という形で寄付者を認証することで寄付を促進）
- ・2660 地区の現在の入会者数は 34 名（注；実際の 1,000 ドル以上寄付者は 64 名）

5. ロータリー・クレジットカードの紹介

- ・利用額の 0.3~0.5%と年会費の一部がロータリー財団の寄付に
 - *2015-2016 の寄付総額は 1,005 万円、利用総額は約 14 億円
- ・本年度から「ロータリー・ダイナース・クラブカード」が付加（各クラブをひとつの団体としてとらえ、引き落とし口座を指定するコーポレートカード。また、個人カードとビジネスアカウントカードを併合するものも。各地区でも使用実績あり）
 - *各地区・クラブでの 1 年間総支払（想定 34 億 3 千万円）は 1 億円の寄付に相当

発表者：廣田 亮彦

(16時 29分)

【記録内容】ポリオ撲滅

1. ポリオとは

- ・急性灰白髄炎（小児麻痺）、5歳未満の子供に感染しやすい。ポリオウイルスによる麻痺。
- ・治療法はないが、ワクチンで予防可能

2. 日本におけるポリオ

- ・1960年頃大流行、その後、ワクチン導入を経て、1980年の1例以降患者なし（ただし、海外からウイルスが持ち込まれる危険はあり）

3. 国際ロータリーのポリオ撲滅の軌跡…基金、募金を通じてポリオワクチンを子供達に

- ・1979年フィリピンの子供達（600万人）のポリオワクチンを購入・輸送するプロジェクト開始
- ・1985年ポリオプラス開始、1988年「世界ポリオ撲滅運動」立上げ（当時患者は35万人以上）
- ・1994年南北アメリカ大陸でポリオ撲滅、2000年オーストラリアから中国の西太平洋地域でポリオ撲滅
- ・2003年ロータリーの寄付総額が5億ドルを超過、常在国は6か国に
- ・2006年常在国は4か国に、2011年ロータリーの寄付総額が10億ドルを超過
- ・2012年常在国は3か国に、2014年WHOが東南アジア地域からのポリオ撲滅を宣言

4. ポリオ症例の推移

- ・1997年から2015年の間でポリオ症例は、99.9%減少
- ・しかし、2015年以降、アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアで計100人程度の症例有り

5. ポリオの100%撲滅の必要性和資金の必要性

- ・最後の0.1%の撲滅が非常に困難
- ・常在国では地理的な隔離状況、インフラ不足、紛争状態、宗教上の理由等から予防接種が困難
- ・ポリオの100%の撲滅がない限り、今後10年以内に全世界の発症が年間20万件に達する予想
- ・ポリオの100%撲滅の為には、15億ドル以上必要（特に常在3か国では潤沢な活動資金が必要）
- ・ロータリアンの寄付は貴重な資金源、全てのロータリアンが寄付の目標達成を！
- ・また、寄付のみならず、ポリオ撲滅の呼びかけも

閉会 (16時 50分)